

第3章 名勝日本平の特徴

第1節 眺望

1 パノラマ景観

山頂からの眺望は、東北に富士山、清水港、三保松原、清見潟、南に久能山、伊豆半島から御前崎にかけて駿河湾一帯を望み、北西には赤石山系（日本アルプス）を遠望することができる。



富士山、清水港、三保松原、清見潟方向のパノラマ景観

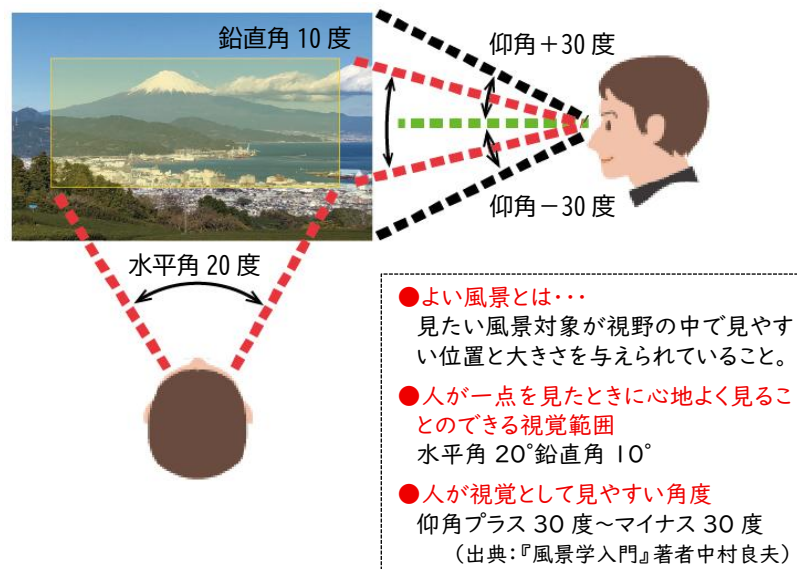
【景観の構造】

日本平の景観構造の大きな特徴は、本地の地形的特徴である山頂部の高位段丘面（日本平面）によって四囲の展望が開け、更に吟望台位置を頂点とした緩傾斜地であることで、俯瞰方向にも可視範囲が広がり、左右上下の視野の範囲に広がり感がある点にある。

特に富士山への眺望は、仰角（見上げ角度）4度（距離約49km、標高差3,500m）で山岳展望の理想的仰角（6度前後）からは、やや迫力にかけける山岳風景であるにもかかわらず、俯角（見下げ角度）2～5度前後（清水区三保の真崎 距離6900m、標高差297m、俯角：2.3度）（清水区入船町 清水マリナーパーク付近（水際線）：距離4265m、標高差－269m、俯角：3.6度）、（清水区村松原 村松原稲荷神社付近：距離2963m、標高差－261m、俯角：5.0度）にある清水港一帯の俯瞰景観によって目線より下の景観領域が確保され、上下の視野が広がり、本地ならではの観富景観を創出している。

俯角2～5度は遠景領域となり、観富景観が仰角4度と清水港一帯の俯瞰景観の俯角5度を併せて10度以内に収まり、人が一点を見たときに心地よく見ることができる視覚範囲（10度以内）となり、これは日本平の眺望景観の美しさを証明する。

また富士の裾野を隠すように二重三重に左から張り出す低山稜が景観に奥行き感を与える等、近景、中景、遠景の組み合わせの秀逸さが絵画的風景を作り出す要因となっている。（「平成19年度日本平公園基本計画報告書（静岡市）」に加筆）



2 徳富蘇峰選定の4つの眺望地点

大正 15 年 (1926)、日本平へ初めて登った徳富蘇峰は、国民新聞に「天下の絶景日本平」と絶賛する記事を掲載した。これが日本平の名が全国に知られるきっかけとなった。清水市は登山道路 (旧道日本平線) を作り、日本平の観光の発展を図るため、蘇峰に、眺望の良い地点 4 か所の選定と命名をしてもらい、昭和 10 年 (1935) に石柱を建てた。これが望嶽台、吟望台、鐘秀台、超然台である。望嶽台は、有度山八合目付近の昭和 9 年開通の旧登山道 (旧道日本平線) 沿いにある。遠くに富士山と眼下に清水市街と清水港を望む。吟望台は、日本平山頂の日本平夢テラス展望回廊付近の広場にある。富士山をはじめ、360 度のパノラマを見ることが出来る。鐘秀台は、日本平の久能寄り南側の海食崖上先端にある。かつて、富士山側は富士山と三保松原を望み、久能側は、久能山との間の屏風谷、静岡市街地を遠望、さらに駿河湾とその先に御前崎灯台が見えた。超然台は、有度山最高地点 307m にあり、吟望台、鐘秀台との三角形の一頂点にたつ。かつては、四顧さえぎるものなき雄大な眺望と評され 360 度のパノラマが見られた。蘇峰も日本平の特質を四周の眺望ととらえ、その特質が良く表れた地点を 4 か所選定している。

第2節 指定地の景観

1 眺望地点としての「良好な環境」

昭和26年(1951)「日本平県立公園」指定以降、駐車場、公衆トイレ、芝生広場等が整備された。昭和39年(1964)に日本平ホテル(民間)が建設され、宿泊が可能となった。昭和39年日本平パークウェイが整備され、旧清水市側に先行して開通した道路は、旧静岡市側からも自動車で登ることができるようになった。平成24年(2012)(からアクセス道路整備、平成28年(2016)から大芝生広場、園路、駐車場整備、平成30年度(2018)に、日本平夢テラス展望回廊の整備、山頂エリア園地が整備された。

眺望を觀賞できる環境整備が主に昭和30年代に実施され公園の姿として整い、平成20年代後半以降さらに山頂エリアの整備が行われ、名勝の価値を豊かに実感できる公園に整備されてきた。

2 景観形成に資する地形とイメージを維持する「茶畑」

日本平の景観は、黒ぼくといわれる柔らかい土壌と緩やかに傾斜する段丘面の地形の上に、背の低い茶樹の栽培、茶畑を営農してきたことにより、維持されてきた景観である。

有度山の山頂部は明治期になり開墾され、静岡の温暖な気候、日当たりが良くなだらかな丘陵地を利用して、お茶やミカンがつくられた。

「手前に茶畑、その奥に清水市街地と清水港、三保松原、その背後に富士山」という日本平の構図の一つは、観光地日本平のイメージとして広く知られている。日本平の景観は、今日まで茶畑(茶園)をつくることでその地形が維持されてきたことにより形成されたといえる。

静岡県は、全国の茶園の面積の40%を占める日本有数の茶どころである。お茶づくりに適した温暖な気候と高い生産技術により、品質の高いお茶を生産している。

有度山の茶の歴史について『わが郷土清水』(昭和37年鈴木繁三)には「駿河風土記に享保年間(1716~35)有度山ろくの馬走・草薙・谷田・吉田・聖一色・池田・小鹿の村々で原畑や山畑を切りひらいて、お茶を植えたという記録がある。これからして、有度のお茶の歴史は、江戸時代の中ば頃から栽培をしていたことがわかる。」とあり、有度山の茶に関しては「静岡藩の士族によって開拓されたといわれている。それ以前の有度山は雑木の多い原野で、少しばかり桑を栽培していたに過ぎない」と記述されている。また「日本平では、江戸

幕末から既に茶の栽培が行われ、明治末期には新山^{しんやま}茶の名産地として知られていた」とある。(五味響子「日本一の観光地「日本平」いまむかし」『季刊清水』第44号』戸田書店2011年)

その後、明治初期に清水港が開港され、輸出茶の増加に刺激された茶商人や油問屋が山野の開墾による茶栽培を奨励したのが清水地域でお茶が本格的に栽培されるようになったきっかけとされている。昭和の始め、国の失業救済事業により、日本平登山道が完成し、荷車が

有度山頂上まで上ることが可能になったことで、山地農業に大転機をもたらし、畑地への開墾造成が大いに進んだ。さらに、杉山彦三郎が有度山のふもとで「やぶきた」を発見、育成したことも影響して茶栽培が活発になった。現在「やぶきた」は日本茶を代表する品種となっている。静岡市駿河区谷田には「チャ樹（やぶきた種母樹）」があり、昭和38年（1963）に静岡県指定文化財に指定されている。やぶきた生誕100年を記念して、日本平地区で宮内庁への献上茶謹製事業が行われたこともある。北原白秋が作詞した「ちゃっきりぶし」の歌詞にも「日本平」「茶つみ」が登場することからも、日本平茶がメジャーであることがわかる。

『季刊清水』には以下のように記述されている。

「有度山は清水区では南側に位置しており、気候温暖なことから昔からミカンやお茶を主体に栽培されています。（中略）そして、頂上付近には眺めの良い茶園が現れます。この茶園もかつては小さな高低差があり園地は不ぞろいで作業効率が良くありませんでした。また、品質のばらつきもあり茶産地として課題を抱えていました。そのため、生産者の茶園改植への機運が高まり、頂上周辺の茶園を重機で削り取り、なだらかな園地にして新たに茶の苗を植えるなどして整備しました。整備後は広々とした茶園となり、作業効率はもちろん品質も安定した産地に生まれ変わりました。

頂上付近に広がる茶園は、村松地区の基盤整備地と同様にすばらしい景観が特徴で清水の市街地や三保半島、駿河湾と伊豆半島、さらに遠方に富士山を望むことが出来ます。新茶シーズンになると生産者だけでなく全国から来る観光客がここからの眺望を楽しんでいます。

このように、温暖な気候、肥沃な土地とめぐまれた自然を活かした有度山の農業地帯は観光と一体になっている産地でもあります。」

杉山滋朗「自然を活かした有度山の農業地帯」『「季刊清水」第44号』

（戸田書店、2011年）

近年は、茶の価格低迷や担い手不足により耕作放棄地となった茶畑が増えており、その再生を目的とした茶の木の抜根・改植（古い木から新しい木に植え替える）が進められている。静岡市では「静岡市茶どころ日本一計画」を作成し、静岡市を日本一の茶どころとして育て次代に継承していくための施策などを定めている。また、清水の茶農家によって富士山と茶畑の景観を守るための「静岡茶畑テラス再生プロジェクト」がクラウドファンディングによって現在進められており、景観を見渡せるテラスの修繕を中心に、テラス周辺茶畑の栽培効率化・改植（環境整備）、観光客にお茶を楽しんでもらう場作りなどを実施している。



茶畑と清水港と富士山（静岡市オープンデータ）



提供：古澤重則氏
有度山麓の茶園

第3節 稜線美

日本平（有度山）は、静岡市の南部中央部分にゆったりと横たわる緑豊かな丘陵である。有度山は、山の多くの部分で農業林業の営まれてきた山であり、静岡市民にとって市街地に近接したふるさとのイメージを形成する重要な山である。

有度山は、富士山や360度のパノラマを眺望することができる「見る山」であるが、多くの市民から日々「見られる山」でもある。ここでは「見られる山」として、山頂の平坦地である日本平を形成している有度丘陵の稜線について記述する。有度丘陵は幾度かの海面の上昇・下降により土砂が堆積したり、侵食されたりしている。山の北（葵区）側から見ると、東西になだらかな稜線を描いている。西（駿河区）側から見ると、南側の久能山方面は隆起と海に削られたことでお椀型（ドーム状）の稜線に、北側はなだらかな稜線になっている。東（清水区）側から見ると、南側は起伏があり、北側はなだらかな稜線を描いている。そしてどの方面から見ても、山頂が平坦になっていることがわかる。

平地から山頂に向かうに従い、傾斜が急になるため、眺めとしては住宅地から少し傾斜がつきはじめたところに茶畑が、さらに急な所にミカン畑、そしてミカン畑より傾斜がついた所の大部分が森林となっている。

スダジイも有度丘陵（日本平）の稜線に大きく関係している。スダジイはブナ科シイ属、関東以西の暖かい地方を代表する常緑広葉樹で、果実は「シイの実」と呼ばれる。水はけがよく、土壌が乾燥しやすい尾根でも生育できる耐性がある。有度丘陵（日本平）では、尾根の急斜面にスダジイが特に多くみられ、樹冠構成樹種であることから、稜線を形成する樹木として重要である。



【北側から】有度丘陵（日本平）の稜線（静岡県庁（葵区追手町）21階展望ロビーから）



【西側から】有度丘陵（日本平）の稜線（南安倍川橋（駿河区中島）から）

Ⅰ 地形・地質

北東から南西側は、活しゅう曲をあらわすなだらかな丘陵であり、南東から北東側は、侵食によって形成された急峻な崖地である。山頂の台地状の地形、それに続くなだらかな斜面がいくつもの眺望地点を有する環境となる。

<地形>

有度山は、かつて平野だった一帯が、約 10 万年前頃、ドーム状隆起を始め、氷河性海面変動による海進、海退の影響を受けながら隆起を続け、現在の高さ 307m に達した。ドーム状の隆起の隆起軸は、現在の有度山の頂上と久能山の頂上を結ぶ方向にある。海に面する東側は海食地形を残し、南側を削りながら海食崖を現在の位置まで後退させた。削られた砂礫は沿岸流で東に運ばれ、三保半島を成長させた。成長する三保半島によって、扇状地には静かな入江が作られ、背後の丘陵によって温暖な気候が保たれたと思われる。（「久能山誌」第一部第一章茨城雅子氏 平成 28 年静岡市）

日本平は、有度山山頂部の台地面と丘陵地斜面、開析谷、南側の侵食崖で構成される。名勝中央部分の台地面は、北西に 2 度以上の緩やかに傾いた高位段丘面（日本平面）で、緩傾斜地とこれよりやや急な斜面地が交互に出現するひな壇状の地形を成している。南側の侵食崖は、屏風岩と呼ばれる礫層から成る比高 40～50m の切り立った崖で、今なお崩落が進行している。屏風岩によって切り離された孤立峰が久能山である。

日本平をつくる地層は、泥層、礫層が交互に重なっているが、礫層の礫の組成は、現在の安倍川下流部の礫組成と同じである。平坦な表面は、地層の堆積面となっていることから、過去の静岡平野の一部が隆起したものと考えられる。北東から南西側は活しゅう曲をあらわす、なだらかな丘陵であり、南東から北東側は、侵食によって形成された急峻な崖地である。

<地質>

有度丘陵をつくる地層は、下位から根古屋層、久能山層、草薙泥層、小鹿礫層、国吉田礫層の五つの地層が順に重なっている。

日本平においては、ほとんどが安倍川の氾濫による扇状地性河川堆積物である。厚さは約18mで西北に向かって厚くなり、この層の下位に久能山礫層、根古屋泥層が見られる。山頂一帯の土質は「黒ぼく」といわれる深い粘土層で、中腹から麓にかけ砂礫壤土層が多く、場所により砂利層、岩盤の地帯がある。



【西側から】用宗城跡（駿河区城山）からみた市街地と有度丘陵と富士山（静岡市オープンデータ）



【東側 海上から】駿河湾から見た三保松原と有度丘陵（清水港周辺）（実習船「南十字」より撮影 東海大学海洋学部海洋理工学科）



【北東側から】清見寺「聴音閣」(清水区興津清見寺町) から見た有度丘陵

2 植物

日本平と三保松原は、昭和 26 年県立自然公園として指定され、その自然環境も保護されてきた。特別地域においては捕獲採取等を規制されている動植物のリストがある。植生は、茶や柑橘類の畑地とスギ、ヒノキの植林地、コナラやハゼノキ、シデ類などからなる落葉樹林、シイ、タブ林などの常緑広葉樹の二次林がほとんどを占める。一部人の手の及ばない急峻の場所にはタブノキやスタジイ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、クロガネモチなどからなる自然の照葉樹林も見られる。

<植生の現況>

観光地及び農地としての開発が進み、耕作地、修景緑地等の植生が占める。雑木林、植林、二次草地、農地等がモザイク状に混在する。

<植物>

植栽として、ソメイヨシノ・オオシマザクラが代表例である。自然林として、スタジイ・タブノキ・ヤブツバキなどがある。

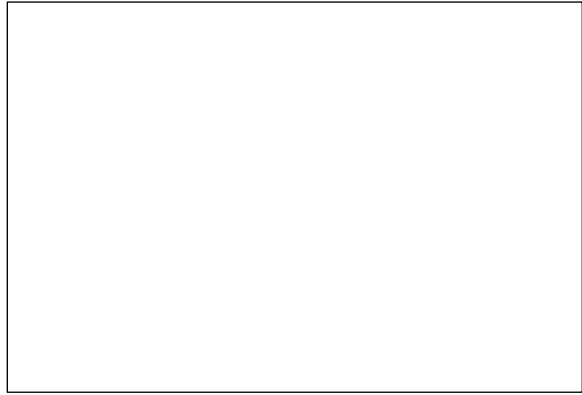
貴重植物として、周辺で 115 科 437 種の植物を確認（平成 19 年度環境影響調査）。県条例で定める採取禁止植物は、ヤマツツジ、シュンラン、クロムヨウラン、コ克蘭の 4 種。主に台地外周の雑木林林床で個体を確認されている。

外周部の樹林地はアカマツ等二次林や、スギ、ヒノキ等人工林であるが、人の手が入らないため、アカマツ等は、ほとんどみられなくなり、照葉樹林への代替が進行している。山頂部には、ケヤキ、サクラ、ウメ、イチョウ、ユリノキ等の樹木や芝生や草花など人の手が入った植栽空間が見られる。

公園内外全体にサクラが多くみられ、昭和9年（1934）日本平登山道（現旧道・清水日本平線）の開鑿当時、沿道にソメイヨシノの苗 700 本を植え、それ以来日本平は桜の名所となった。



さくらの様子（日本平ホテル提供）



シイノキ

第4節 歴史的社会的要素

Ⅰ ヤマトタケル伝説

『日本書紀』や『古事記』に記される日本武尊^{やまとたけるのみこと}の伝説は、有度丘陵北部にあたる草薙周辺に数多く残っている。日本武尊を主祭神とする草薙神社は、かつて神社から日本平山頂部にかけて神社領として保有していたという。現在はハイキングコースとして整備がなされている。また、日本武尊が日本平で四方を見渡したという伝説も存在しており、草薙地区と日本平は、地理的な面、神話的な面の双方でつながりを有している。日本武尊の伝説は、有度丘陵北部にあたる草薙周辺に景行天皇が日本武尊を偲び、この地を行幸した時、鳳輦を留めた場所と伝えられる「天皇原」、日本武尊が征伐した賊徒の首を埋めたと伝えられる「首塚」、日本武尊が狩りをした時昼食に柳を折って箸とした場所「柳ヶ澤」など数多く残っている。



日本平公園内のヤマトタケル像

2 久能山、久能山東照宮

久能山は有度山の一部であり、屏風谷を挟んで日本平の南側に位置する。日本平からの南側眺望として、屏風谷、久能山、駿河湾、その先に西側に御前崎、東側に伊豆半島へと繋がる景色を望むことができる。日本平と屏風谷、久能山までは、史跡久能山として、名勝日本平と一体的に保護され、その景観が今日まで守られている。



南側上空から撮影。手前が久能山。背後に屏風谷、清水港と富士山

3 アクセス手段

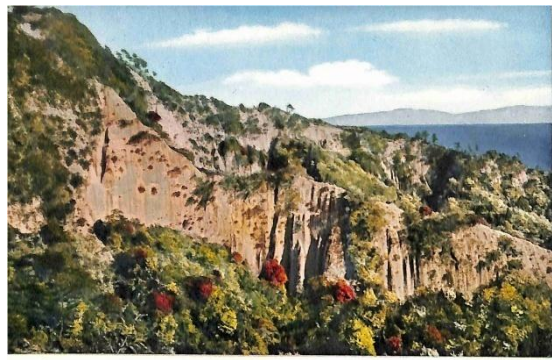
観光目的により、昭和9年（1934）に「日本平登山道路」（旧道）開通。昭和32年（1957）に日本平と久能山を結ぶ「日本平ロープウェイ」が開通。昭和39年に静岡側日本平パークウェイ、昭和47年（1972）に清水側日本平パークウェイが開通。観光のニーズの高まりにより、昭和の初めころより、交通アクセス手段が整備されてきた。

平成20年代以降は、平成21年（2009）富士山静岡空港が静岡県牧之原市に開港し、県外、海外からの来訪者のアクセスが向上した。令和元年（2019）、東名高速道路に日本平・久能山インターチェンジが開通し、東名高速道路からのアクセスが向上した。令和3年（2021）、中部横断自動車道が全線開通し、山梨県と静岡市の移動時間が短縮された。

日本平ロープウェイは、名勝日本平と史跡久能山とを結ぶ唯一の交通手段である。株式会社静岡鉄道が運営しており、ロープウェイからの眼下には、切り立った絶壁が屏風のように幾重にも重なる「屏風谷」と呼ばれる景勝地を空から観賞することができる。



日本平ロープウェイ



屏風谷 県立図書館ライブラリー

4 宿泊施設等

日本平山頂から北側へ緩やかに下った斜面上に位置する日本平ホテル（民間）は、日本平周辺では現在唯一の宿泊施設であり、ホテルの芝生庭園を前景として、清水市街地、清水港、三保松原、その背後に富士山全体の眺望を觀賞しながら宿泊することができる。

昭和 39 年（1964）『日本平観光ホテル』として開業し、その後、昭和 54 年（1979）に『日本平ホテル』へと名称を変更した。芝生庭園では野外コンサートなどのイベントを開催し、毎年 7 月、約 12,000 発の花火を打ち上げる『日本平まつり』の会場となっている。平成 24 年（2012）、全館建て替えを実施した。日本平ホテルは、日本平公園の一部となっており、公園利用者は日本平ホテル内にて、景色を觀賞することもでき、日本平の周遊をしながら景色を楽しむ一つの視点場となっている。そのほか、觀賞者のための食事場所、土産物店がある。



提供：日本平ホテル
日本平ホテル外観

5 山頂シンボル施設、展望回廊、風景美術館「日本平公園」

日本平公園施設

「日本平公園基本計画（平成 19 年作成）」にて、都市計画決定範囲 88.5ha の内、比較的平坦な区域 33.0ha について基本計画を行っている。

「風景美術館＝日本平」～日本平の「驚きと感動」体験を支える日本一の展望公園を目指す～を基本テーマとし、展望を楽しむ公園施設として、現在整備中である。平成 30 年（2018）、山頂に夢テラスと展望回廊が整備された。日本平公園基本計画の改定を行い、今後さらに公園整備が進む予定である。

夢テラス、展望回廊

日本平山頂には突出した高所がないため、同一視点から 360 度の景観を見渡すことができなかったが、夢テラス、展望回廊ができたことで 360 度の景観を見渡すことができるようになった。

夢テラス 1 階の展示エリアでは、日本平の歴史や文化、地形の成り立ち等を学ぶことができ、2 階には、景色とともに静岡県産のお茶を味わうことができる喫茶コーナー「茶房夢テラス」があり、3 階の展望フロアからは、富士山をはじめ駿河湾、静岡市街、伊豆半島などを眺めることができる。建物は隈研吾建築都市設計事務所が手掛け、静岡県産の木材を使い、周囲の自然と調和するようにデザインされている。

1 周約 200m の展望回廊からは、360 度のパノラマ景観を見渡すことができる。展望回廊は終日入場可能で、昼夜を問わず絶景を望むことができる施設となっている。



日本平夢テラスと展望回廊

6 人文的景観（産業景観、生活景観、夜間景観）

日本平山頂からは、東に清水港、西に静岡市街地を見渡することができる。清水は、港と町が一体的に発展してきた港町である。清水港は、江戸時代には、海上交通の要所として発達し、明治期には、港が開港、明治 32 年（1899）年には外国との直接貿易が可能な開港場に指定され、その後茶や缶詰などの輸出による急速な発展を遂げた港である。また、港の南西には、近世東海道の宿場町であった江尻宿があり、大正 13 年（1924）に清水町と江尻町が合併し清水市が誕生し、庁舎や病院の建設などにより、市の中心地として発達した。

（夜間景観）

日本平は、以前から有数の夜景スポットとして知られていたが、平成 28 年（2016）「日本夜景遺産」（自然夜景遺産）に選ばれ、全国的に日本平からの夜景の美しさが評価された。夜景視点場の豊富さも認定の理由という。夜間の日本平からの清水港の眺めは、暗やみにオレンジ色に浮かび上がる清水港や町の灯りが陸地部と海岸部の境界を明確にし、昼間には見ることができない人工的な美しい夜間景観を形成している。

・自然的景観（遠景）

日本平からの遠景では、まず東に日本の最高峰である富士山の大きく均整がとれた山体の姿がある。手前の山々の奥にひと際高く、雄大な姿の富士山とその裾野が左右になだらかに伸びている。そして富士山の裾野の延長には伊豆半島が見え、伊豆半島から御前崎にかけて静岡県の玄関口である駿河湾が広がっている。また北西には日本アルプスの 3,000m 級の山々の連なり、富士山、伊豆半島、駿河湾、南アルプスという静岡県を代表する自然地形の国土美がある。

・人文的景観（中景）

遠景の手前の中間的景観には、東には清水港から三保松原、南に久能山東照宮、西には安倍川、巴川とともに駿府城公園エリアや東静岡エリアなど、静岡・清水平野の市街地の景観が一望できる。静岡市は、3,000m 級の山々が連なる南アルプスから水深 2,500m の駿河湾に至る豊かで恵まれた自然環境の中で成長してきた都市であり、日本平からはこうした静岡市の特色を眺望により実感できる。

・静岡のイメージとして定着した景観（近景）

日本平からの景観のなかで、「手前に茶畑、その奥に清水港と三保松原、その背後に富士山」という構図は、日本平の代表的な景観として定着してきた。富士山や三保松原を背景に、なだらかな斜面に段上に広がる茶畑が織りなす景観は、温暖でのどかな静岡のイメージにつながっている。

（産業景観）清水港は、富士山を望む日本三大美港（清水港、長崎港、神戸港）の一つといわれ、静岡市内外の産業（自動車部品、産業機械、電気機器、製紙など）の様々な産業が集積しており、地域の産業と物流を支える輸出入拠点として重要な役割を担っている。

（生活景観）港を中心に発展してきた清水地区の市街地が広がる風景。



日本平からの清水港の夜景（令和7年11月撮影）日本平夜市



提供：提供（一社）夜景観光コンベンション・ビューロー
夜景

7 ミカン

有度山の山頂部は明治期になり開墾された。丘陵の東部ではミカン園、西と北麓では茶園が多い。静岡の温暖な気候、日当たりが良くなだらかな丘陵地、水はけのよい砂礫層の土壌を利用して、ミカンがつくられ、日本平の風致景観に魅力を添えている。

昭和15年（1940）4月、清水区駒越西に柑橘試験場が創設され、同時に練習生養成部門

ができた。平成 27 年（2015）10 月、清水区茂畑に移転されたが、現在でも日本平でミカン栽培をしている農家の中には柑橘試験場で練習生として学んだ経験を生かして活躍している者もいる。平成初期、有度山麓の村松地区で大規模な基盤整備が行われ、トラックでミカン園まで行くことができるようになり、ミカンの生産効率と品質が安定した。

現在、日本平では早生ミカン、青島ミカン、ポンカン、はるみミカン、清見オレンジなどが栽培され、日本平産や有度産のミカンとして店頭に並んでいる。日本平ロープウェイの売店には「蛇口ミカンジュース」が設置されており、地元清水産のミカンのおいしさを味わうことができる。



提供：古澤重則氏
日本平地区のミカン農園



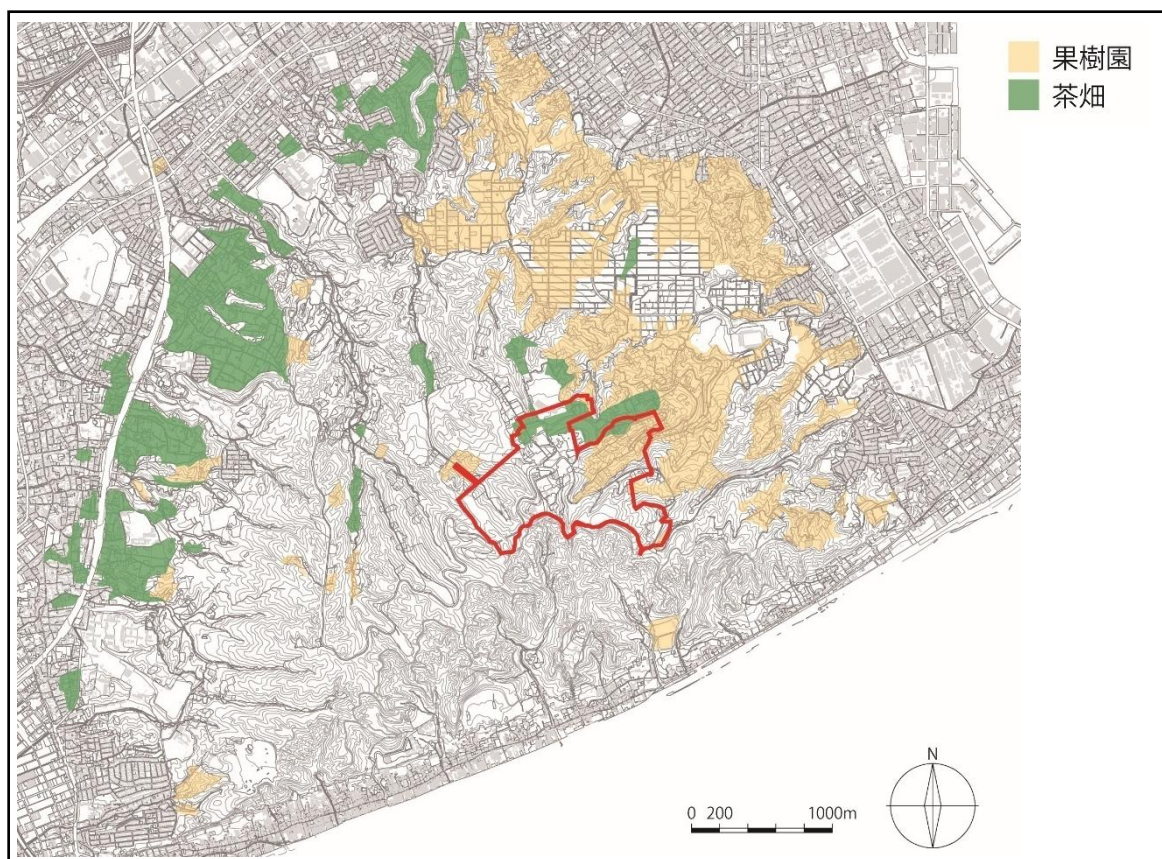
提供：古澤重則氏
日本平産のミカン



提供：清水農業協同組合
駿河湾が見渡せる風光明媚な日本平地区の園地



提供：清水農業協同組合
ミカン（はるみ）

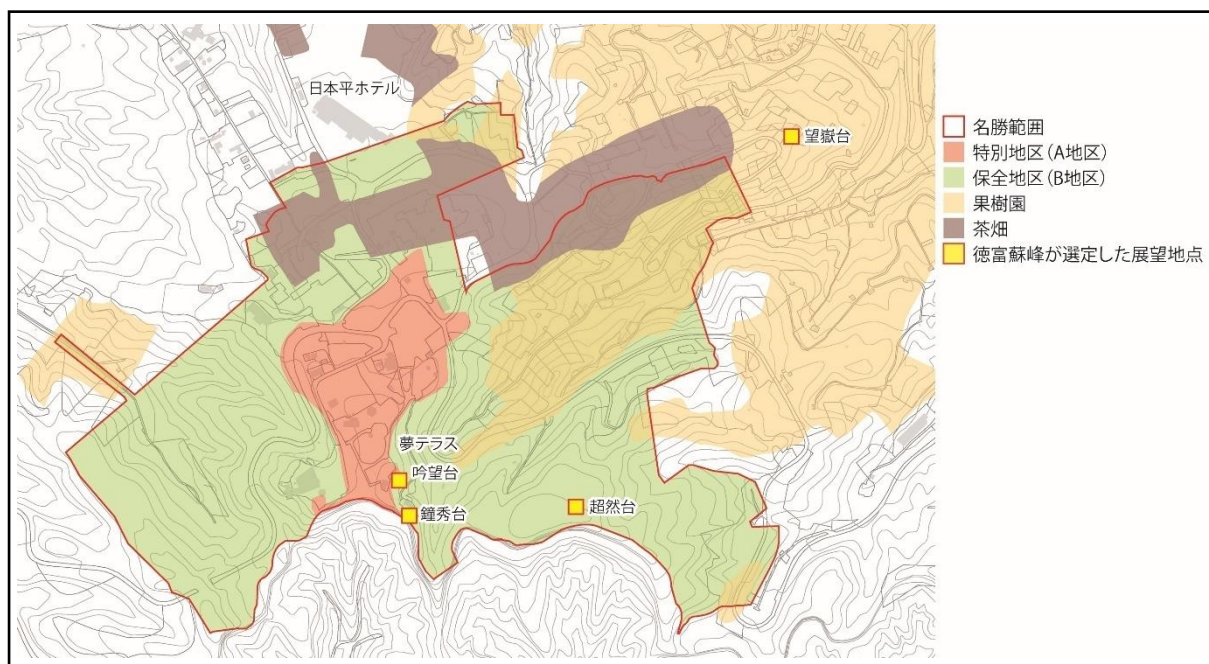


出典：第6回・第7回自然環境保全基礎調査植生調査 環境省生物多様性センター

調査期間：第6回 平成11年(1999年) -平成16年(2004年)

第7回 平成17年(2005年) -調査中

有度山の茶畑、果樹園



名勝指定地付近の茶畑と果樹園と徳富蘇峰が選定した展望地点

8 放送関連施設

日本平デジタル放送所（日本平デジタルタワー）が山頂部に建つ。アナログ放送終了に伴い、平成 17 年（2004）日本平公園山頂部に静岡県のテレビ放送を送信する集約電波塔である、デジタルタワーⅠ基（高さ 95.5m）が建てられた。景観に調和するよう、久能山東照宮にかつてあった五重塔をモチーフとしている。その後、アナログ放送時には日本平山頂に 5 基建てられていた赤と白に塗り分けられたテレビの送信塔が撤去され、銀灰色の電波塔Ⅰ基に集約された。平成 30 年（2018）に日本平デジタル放送所（日本平デジタルタワー）を囲うようにして建設された展望回廊から 360 度のパノラマ景観を見渡すことができるようになった。現在静岡市街地から有度山を望むとき、デジタルタワーⅠ基が、日本平の位置を示すランドマークとなっている。



提供：静岡県
かつて紅白のテレビ塔が 5 基あった頃の日本平山頂



提供：静岡県
現デジタルタワーⅠ基